

整理番号 2019M-042
補助事業名 2019年度 中国地域の技術開発・産業振興 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 中国地域創造研究センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

① 技術研究交流会

研究者と企業とのネットワークの形成・強化および商品化・事業化の促進を支援する。

② 新産業創出研究会

中国地域の新しい産業創出を目指し、大学・高専の研究シーズをもとに、企業の事業化ニーズ実現のための産学連携研究テーマを公募する。その中から採択したテーマについて、助成を行うとともに、定期的に進捗管理を行い、1年間の研究活動期間を通じて、公的支援制度への応募や商品化・事業化に向けた課題解決の支援を行う。

③ 質感色感研究会

感性工学・人間工学を活用した付加価値の高い魅力的な商品・サービスの開発を目指す企業の支援により「ひとあじ違うモノづくり、サービスの定着」を図る取り組み。

④ 産業振興方策調査会・講演会

企業経営者、技術者、研究開発者、新規ビジネスや起業を志向する社会人、学生等を対象に先端技術、技術・開発の最新動向等に関する講演会や地域が必要とする旬のテーマに関する課題解決に向けた報告会を開催し、新たなものづくり、新規事業創出および起業に関する動機付けを行う。

(2) 実施内容

① 技術研究交流会 (<https://crirc.jp/jigyonaityou/rd/kouryu/y/2019.php>)

電子デバイス事業化フォーラム(3回)、ヘルスケア・医療福祉機器技術研究交流会(3回)の分野で計6回の技術研究交流会を実施し、専門家による情報提供、大学の研究シーズと中国地域の企業とのマッチングを図った。



交流会の様子

②新産業創出研究会 (<https://crirc.jp/jigyonaizou/rd/shinsan/ke/2019.php>)

産学連携による研究テーマの応募34件の内、採択された10件のテーマについて、助成を行うとともに、大学・高専、企業および当センターの三者で研究会を構成して、年3の定例会議を開催し、事業化に向けての課題解決を図った(2020年3月に第3回定例会議の開催を計画した研究テーマ5件については、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面開催とした。)

支援を行った結果、試作6件、特許出願1件に結び付いた。また、ほとんどの研究実施者が新産業創出研究会終了後も研究を継続する意向を示しており、数年後の商品化・事業化が期待できる。



定例会議の様子

③質感色感研究会

(<https://crirc.jp/jigyonaizou/rd/shitsukan/pdf/houkoku/2019/191120.pdf>)

研究会(非公開)を3回開催(参加者数:98名)、感性サロンを1回開催(参加者数121名)、個別検討会(非公開)を34回開催し、参加企業の課題解決に向けた研究活動の支援や感性工

学・人間工学を活用した商品・サービス開発に関する意見交換・情報交換・普及啓発を行った。



④産業振興方策調査会・講演会

(<https://crirc.jp/jigyonaiyou/information/kouen/pdf/191004.pdf>)

エコノミーシェアリングについて、外部講師を3名招き、「中国地域におけるシェアリングエコノミー振興方策調査報告」、「全国に広がるシェアリングの波～国の動きと最新事例紹介～」、「みんなの暮らしをシェアして旅しよう」の演題で、広島市にて講演会を開催し、117人が聴講した。



講演会の様子

2. 予想される事業実施効果

①技術研究交流会

今年度の参加者は延べ619名の実績となり、専門家による最新情報や先進事例を紹介することで、企業経営者や技術者に新たなモノづくりや新規事業創出に向けたきっかけづくりが期待できる。また、大学の研究シーズ・ニーズ紹介を通じて、大学と企業とのマッチングの場を提供し事業の可能性・事業化に向けた課題検討などを支援するとともに、過年度案件の

フォローアップなどを通してプロジェクト組成を行い事業化の促進を果たしていることから、地域産業の創出と活性化が期待できる。

②新産業創出研究会

今年度実施した10件の研究テーマは、研究終了後、直ちに実用化に至ったものはないが、以前に実施したものの中には、本研究会終了から数年後に商品化されたものが多数ある。今年度取り組んだ研究実施企業に研究終了後にアンケートした結果、13社（1研究テーマに複数の企業が参加しているケースあり）中9社が本研究会終了後も研究を継続すると回答しており、今後の商品化が期待できる。

③質感色感研究会

今年度は、参加企業15社および研究者26名により、参加企業の課題解決等に向けて研究会・感性サロン・個別検討会を開催した。今年度の成果としては、専門学会への論文発表できるような成果、商品化に向けたアイデアコンペ開催による商品開発の方向性策定、新商品開発のための試験・分析・評価を行う等、参加企業の求める商品開発に向けた研究が進んでおり、今後、付加価値の高い商品・サービスの開発が期待できる。

④産業振興方策調査会・講演会

旬な話題として、「シェアリングエコノミー」を取り上げ、講演会を開催した。参加した117人のうち、88%の方が「満足した」と感じており、シェアリングに関連した新規事業の創出や起業に向けた動機付けとしての役割は果たしたと考える。

3. 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

なし。

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし。

4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 中国地域創造研究センター
(チュウゴクチイキソウゾウケンキュウセンター)

住 所： 〒730-0041
広島県広島市中区小町4番33号 中電ビル3号館

代 表 者： 会長 平野 正樹 (ヒラノ マサキ)

担 当 部 署： 産業創造部 事業支援グループ
(サンギョウソウゾウブ ジギョウシエングループ)

担 当 者 名： グループ長 山田 和浩 (ヤマダ カズヒロ)

電 話 番 号： 082-241-9957

F A X： 082-245-7629

E - m a i l： yamada@crirc.jp

U R L： <https://crirc.jp/>